

言葉の変遷

国語班：上 将太 中西 将崇

1. はじめに

ある日、テレビのニュースで「世論調査によると日本人が言葉を本来とは違う使い方で使っている」ということを知り、衝撃を受けた。そして僕たちは、言葉の移り変わりとその原因に興味を持ち、この研究を始めた。

2. 「国語に関する世論調査」とは？

国語に関する世論調査とは文化庁が日本語施策の参考とするため、現代の社会状況の変化に伴う、日本人の国語意識の現状について、平成7年度から毎年実施している世論調査のこと。今回の研究では、平成22～24年度のものを参考にした。

3. 研究の過程

(1) 「国語に関する世論調査」をもとに言葉の本来の意味を認識しているかについて高津高校2年生を対象にアンケート①を作成し、実施して結果を分析した。

アンケート①の例

役不足 例文：彼には役不足の仕事だ。

(a)：本人の力量に対して役目が重すぎること

(b)：本人の力量に対して役目が軽すぎること

(c)：(a),(b)とは全く別の意味()

(2) 変遷を「言葉自体が変わるタイプ」と「言葉の意味が変わるタイプ」に分類した。

(3) 「言葉の意味が変わるタイプ」に焦点を絞り、変わる要因の一つを「ある言葉を初めて聞いたときに本来の意味とは違う意味で捉え、そのまま用いることで誤用が広まったため」と推察した。

(4) (3)を検証するため、アンケート②を作成し、実施して結果を分析した。

アンケート②の例

世間ずれ

①この言葉を知っていますか？

(1)はい (2)いいえ

②この言葉の意味として正しいと思うものに丸をつけてください。

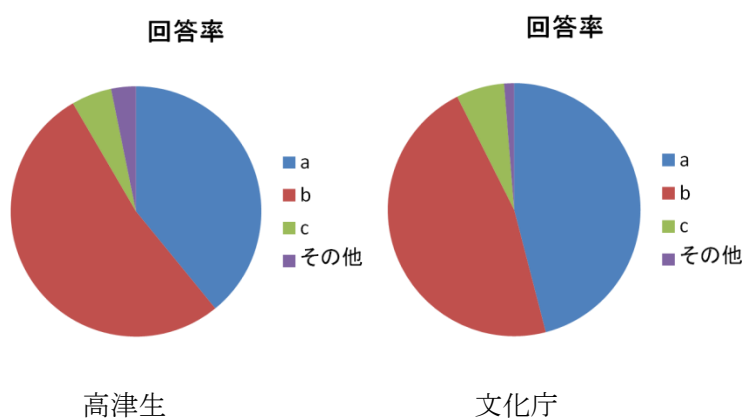
(1)世の中の考えから外れている (2)世間を渡ってずる賢くなっている

4. 結果・考察

アンケート①の結果より、高津高生の結果は文化庁の結果とあまり差がなかった。

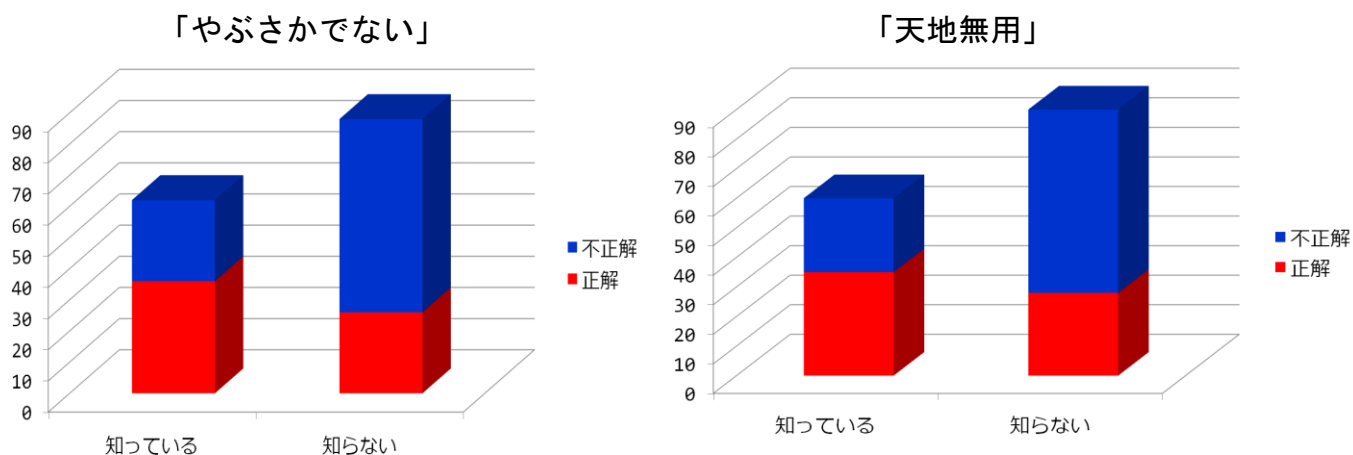
「前に負けた相手に勝つこと」

- (a) 雪辱を果たす
- (b) : 雪辱を晴らす
- (c) : (a), (b)の両方使う
- (d) : わからない



アンケート②の結果より語によって考察通りの結果が得られた

特に「やぶさかでない」「天地無用」については上記3の傾向が顕著であった



- ・ 語によって「知っている」と回答した中にも不正解が多かったことから世間的に誤用が広まっているかあまり使われなくなっていると考えられる

5. 参考文献ならびに参考Web ページ

- ・ 文化庁 『国語に関する世論調査(平成 22~25 年度)』
- ・ 北原 保雄 『問題な日本語』『続弾！問題な日本語』(大修館書店)